

献血者確保対策について(厚生労働省の取り組み)

① 若年層の献血者数の増加

目標:(10代、20代の献血者を献血者全体の**35%→40%まで上昇**させる。)

結果:平成20年度:28.3% 平成21年度:26.8%

◎ 中学生への普及啓発

血液の重要性や必要性について理解を深めるため、全国の中学校にポスターの配布。

○ 平成21年度配布枚数：11,299校に3.6万枚

◎ 高校生への普及啓発

献血及び血液事業に対する理解を促進するため、全国の高校生及び教員へ献血についての副読本(けんけつHOP STEP JUMP)を配布。

○ 平成21年度配布部数 ・生徒用：5,878校に115万部 ・教員用：6万部

◎ 主に10代、20代の若年層を対象とした普及啓発

「はたちの献血」キャンペーン(毎年1~2月)啓発宣伝用ポスターを都道府県及び関係団体等に配布。

○ 平成21年度配布枚数：3.9万枚

◎ 主に10代、20代の若年層を対象とした普及啓発

例年、献血者が減少する時期(秋~年度末)に若年層を対象とした広報活動を展開し、献血者の掘り起こしと複数回献血の強化を図ることを目的とし、平成21年度は、自動車教習所、医療機関、電車内のディスプレイ(デジタルサイネージ)を利用した広報媒体を用いて、普及・啓発活動を行った。

※ デジタルサイネージ:病院、電車内などに設置されたディスプレイに、デジタル技術を活用して映像や情報を表示する広告媒体



- ◎ 幼少期(未就学児童とその親御さん)を対象とした普及啓発
近年、献血者は減少傾向にあり、特に若年層の献血離れは深刻なものとなっている。

こうした状況を踏まえ、特に献血対象年齢前の小学生等に血液(献血)について正しい知識の普及を図るため、啓発資料を製作・配布することにより、幼少期からの献血への理解を深めることを目的とし、親子で楽しく学べるように、厚生労働省ホームページに動画、紙芝居形式で、お子様向けの「けつえきのおはなし」を掲載した。



② 安定的な集団献血の確保(日本赤十字社に対する補助：1/2補助)

目標：(集団献血等に協力する企業を23, 890社→47, 780社へ倍増させる。)

- ◎ 献血に積極的に協力する企業・団体が行う献血活動を社会貢献活動の一つとして広く一般社会に認知されるよう、「献血サポーター」ロゴマークを配布する等により企業・団体が行う献血活動の普及・拡大を図る。

結果：(集団献血に協力して頂いた企業・団体数(累計))

・平成20年度末時点：38, 399社 ・平成21年度末時点：43, 193社

○ 「献血サポーター」ロゴマーク配布枚数

・平成20年度：1, 331社 ・平成21年度：1, 450社



③ 複数回献血者の増加(日本赤十字社に対する補助：1/2補助)

目標：(複数回献血者を献血者全体の27%→35%まで上昇させる)

- ◎ 複数回献血者を確保するため、血液センター毎に複数回献血者を確保するためのクラブを設立し、複数回献血者の確保を図る。

結果：(献血者全体における複数回献血者の割合)

・平成20年度：30.3%　・平成21年度：31.3%

④ その他の普及啓発(全国民的な普及啓発)

- ◎ 「愛の血液助け合い運動」(毎年7月)を厚生労働省、都道府県、日本赤十字社の主催により実施。啓発宣伝用ポスターを都道府県及び関係団体等に配布した。

- 平成21年度配布枚数：3.6万枚
- 平成22年度配布枚数：3.8万枚

- ◎ 「愛の血液助け合い運動」の一環として「献血推進運動全国大会」(毎年7月)を実施。今年度は、皇太子殿下に御臨席を賜り、島根県松江市において開催。

- ◎ テレビ、ラジオ、新聞等の政府広報を積極的に活用した普及啓発を実施。

- 平成21年度：テレビ：3番組、ラジオ：1番組、新聞2回
- 平成22年度(8月末現在)：政府広報オンライン(お役立ち記事)、ラジオCM80秒、インターネットテキスト広告(Yahoo・朝日.com)、

